

「メタルフリー治療」という言葉をご存知ですか

審美歯科治療には
e-maxというセラミック素材を用いた冠を頻繁に応用

鎌田 俊 シュンデンタルクリニック院長

前回に続きメタルフリー（セラミック）治療の話を書きたいと思います。

現在、メタルフリー治療の主流は、コンピュータが造り出すCAD/CAM冠というセラミックの塊から歯を削り出す製品です。CAD/CAM冠のメリットは技工士の技術を介する工程が従来のセラミック治療に比べて少ないため、製品技術差が出にくい（とは言え、奥が深く簡単なものではありません）均一した品質を確保できるのが特徴です。

当院での審美歯科治療にはCAD/CAM冠の他にe-maxというセラミック素材を用いた冠を頻繁に応用します。e-maxは従来のセラミック冠と同様、歯科技工士が手作業で行う行程が多いことから、細かい部分まで再現することが可能で、天然歯に限りなく近く仕上げることができます。しかし作業工程が多い

分、技工士の技術差が出やすく、とても繊細な作業が必要となります。

高い強度

e-maxは従来のセラミック冠では得られない強度を実現しており、天然の歯に近い摩擦性を有しています。

人工の歯は硬ければいいというわけではありません。人工の歯に必要な条件は、（硬すぎない）十分な強度と天然の歯に近似した摩擦性を有することです。天然の歯に比べて、硬すぎる人工の歯があると天然の歯が摩擦により削れ、口のバランスが崩れてしまう現象が起こるからです。

e-maxは高い強度でありながら、天然の歯に近い摩擦性を持っています。これは天然の歯の摩擦を大幅に減少させる効果があります。そして天然の歯と同じように摩擦すること、

噛み合わせ全体の負担を抑える効果があります。

高い透過性

数種類の透明度の異なる材料を使用することより、天然の歯に限りなく近い透過感の高いセラミック冠を製作することが可能です。

歯の形態と色調は、歯科医師と技工士が事前に十分な時間を取って打ち合わせをし、患者の歯の様子を確認しながら丁寧に作製にあたります。

セラミック治療もコンピュータ全盛時代ではありますが、技術力の高い技工士とタッグを組み作製するe-maxセラミック冠に未だに勝る歯はないと私は考えます。これからのメタルフリー治療は技工士と歯科医師がどのように関わって作製しているのかということも、歯科医院選びの一つにするのがいいのかもしれません。



PROFILE

かまだ しゅん 平成16年岩手医科大学卒業。
平成18年岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔分野。
平成23年岩手医科大学大学院卒業（博士号取得）。平成27年秋田厚生連雄勝中央病院（非常勤）。平成28年岩手医科大学非常勤講師。同年函館市内にシュンデンタルクリニックを開院。
日本歯科麻酔学会認定医、日本顕微鏡歯科学会、
SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry, 歯科スタディグループ) 理事。

